	現在の地名（所在地）	区分	アイヌ語地名 カナ表記	アイヌ語地名 ローマ字表記	アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考 確定ベル	備考 コメント
3	ﾂｷ　ｻﾑ 月　寒 (札幌市)	地区 川 公園	チキサﾌﾟ	ci-kisa-p	火打 〈我ら･こする･もの〉	昔神が火打を忘れた古跡だという。	松 浦 〈山田〉	C	①○ ②－ ③ ④
					火を擦(コス)る所 〈我ら･(発火のために)こすった･所〉	アカダモの木片を擦って火を取った所。	永 田 〈山田〉		①○ ②？ ③ ④
					赤ダモ(の生えている所)	木片をもんで火を作るなら、どこでもできるので、何か地名として変だ。赤ダモの木(ci-kisa-ni)の意だったのかもしれない(-ni の代わりに-p が入った形)。	山 田		①○ ②－ ③ ④
			トゥケシサﾌﾟ	{ tu-kes-sap }	丘･のはずれの･下り坂	－	駅 名		①○ ②－ ③ ④
4	ﾂｷ　ｻｯﾌﾟ 月　寒 (浦河町)	川	チキサﾌﾟ	ci-kisa-p	木片を擦(コス)って火を取った所 〈我ら･(発火のために)こすった･所〉	－	松 浦 永 田 〈山田〉	C	①○ ②？ ③ ④
					赤ダモ	〈土地のアイヌ古老浦川タレ媼に聞くと、月寒は昔は赤ダモの木の多い所でチキサニ･カルシ（赤ダモに生える茸）をとりに行って食べたのだという。チキサニと関係のあった地名なのではなかろうか。語尾の-p(もの)は、あるいは木(ni)を指したのだったかもしれない。〉	松 浦 〈山田〉		①○ ②－ ③ ④
5	ﾂﾈ　ﾑﾛ 常　室 (浦幌町)	地区 川	トコムオロ *トコモロ	tokom-or	ぽこんと盛り上がったような山･の所	トコモロに常室と当て字されたのであるが、読みにくいので「つねむろ」と呼ばれるようになった。	山 田	B	①○ ②○ ③－ ④
6	ﾂ　ﾊﾞﾅ 津　花 (江差町)	地区	トゥパナ	tu-pana	尾根･の海の方	江差は岬の突端の津花とその先にある鴎島で港を囲んでいる。和名かアイヌ語名か分からないが、アイヌ語だったらこのような名ででもあったろうか。	山 田	C	①○ ②－ ③ ④
7	ﾂ　ﾍﾟﾂ 津　別 (津別町)	町 川 峠	トゥペッ	tu-pet	二つの･川	津別川と網走川とがここで並んでいるのをいう。	知 里	C	①○ ②○ ③－ ④ どちらとも特定しがたい。
					山の走り根(の下の)･川	－	駅 名		①○ ②○ ③－ ④
8	ﾂﾙ　ｲ 鶴　居 (鶴居村)	村	－	－	－	丹頂鶴の棲息地の意。	山 田	A	和名と思われる。

〔テ〕

	現在の地名（所在地）	区分	アイヌ語地名 カナ表記	アイヌ語地名 ローマ字表記	アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考 確定レベル	備考 コメント
1	テ イネ 手 稲 (札幌市)	地区 駅 山岳	テイネニタッ	teyne-nitat	濡(ヌ)れている･湿地	当時のあの辺の姿が浮かんで来るような名。 {明治6年図には「テイ子ニタ」と書いているという。}	山 田	B	①○ ②○ ③○ ④ー いずれにせよ、低湿地の様子が起源と思われる。
			テイネイ	teyne-i	濡(ヌ)れている･所	発寒川の水が散漫して常に地を濡す所。	永 田		①○ ②○ ③○ ④ー
2	テイネイ (湧別町)	地区	テイネイ	teyne-i	濡(ヌ)れている･所	テイネ川の川口の辺が低湿地になっているので、こう呼ばれたのであろう。	山 田	B	①○ ②○ ③○ ④ー
3	テ ウリ 天 売 (羽幌町)	地区 島	テウレ	{?}	魚の背腸（せわた）	ー	松 浦	C	①？ ②ー ③ ④
			{？}	{?}	趾(アト)	その形が右の趾 {足首から先の部分} に似ている。	村勢一覧		①？ ②ー ③ ④
			チェウレ	ceure {?}	足 {？}	右の足首みたいな形で、親指まである姿なので「足」説が出たのかもしれない。和人の時代になって、地図ができて見ると、なるほど右足の形である。それで「足跡」と跡をつけて解説記が書かれるようになったものか。	山 田		①？ ②ー ③ ④
4	テキ サワ 適 沢 (浜益村)	地区	テキサマ 〈テクサム〉	〈 teksam 〉	〈（岬の）かたわら〉	ここは少し岬に成った所。	松 浦 〈山田〉	C	①○ ②ー ③ ④
			シッテクサム	sitteksam	海岸	ー	永 田		①○ ②ー ③ ④
5	テ シオ 天 塩 (天塩町)	町 川 駅 山岳	テシウンイ *テシウニ	{ tes-un-i }	{梁(ヤナ)･ある･所(川)}	この川口に所々に梁が懸けてあったため。	上 原	B	①○ ②○ ③ー ④ いずれにせよ tes に関した名と思われる。
						テシホは本名テシウニの略言。川上五十里の辺りに神が石で作ったという一条の岩の瀬があり、あたかも梁を懸けた様だったため。	松 浦		
			テシウシイ * テシウシ	{ tes-us-i }	{梁(ヤナ)･ついている･所(川)}	この川底は平磐の地が多く、その岩筋が通って梁柵を結んだ様だったため。			①○ ②○ ③ー ④
			テシオペッ	tes-o-pet	梁(ヤナ)･多い･川	ー	永 田 駅 名		①○ ②○ ③ー ④

	現在の地名（所在地）	区分	アイヌ語地名 カナ表記	アイヌ語地名 ローマ字表記	アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考 確定レベル	備考 コメント
6	ﾃｼｶｶﾞ 弟子屈 (弟子屈町)	町 駅	テシカカ	tes-ka-ka	梁(ヤナ)・上、岸・上、岸	テシは元来は網み連ねたもの、ふつうは魚を捕るための簗であるが、地名に残っているテシの多くは、岩磐が川を横断して簗のような姿をしている所である。弟子屈の場合も岩磐がここで釧路川を横切っているのでそのことであろう。カは軽い意味で添えられることがあって、この場合はそういった岩磐の所を意味するようになっていて、その岸というために、もう一つ「カ」をつけたのでもあったろうか。 ｛松浦『戊午日誌』には「川底盤石有り、その盤石の上浅くして水さわさわと騒ぐが故」と書いている。今の弟子屈橋の上にある石ではなく、古川にあった横長の岩盤で、昔そのところが小さな滝になっていて、その石の上でマレックを持って鮭を突いて獲ったところだという。 なお、弟子屈町史は「岩盤・上」と書いている。｝	山田	B	①○ ②○ ③○ ④ー
7	ﾃｼ ﾍﾟｯ 徹別 (阿寒町)	地区 川 山岳	テシペッ	tes-pet	簗(ヤナ)・川	ー	永田 阿寒町百年史	B	①○ ②○ ③ー ④
8	ﾃﾞﾀﾙﾋﾗ 出足平 (余市町)	川 峠	レタラピラ	〈retar-pira〉	白崖 〈白い・崖〉	〈道ばたの山崖は目のさめるような白岩の壁である。〉	永田 〈山田〉	A	①○ ②○ ③○ ④○
9	ﾃ ﾐﾔ 手宮 (小樽市)	地区	テムムンヤ	temmun-ya	海藻・の岸	海藻が多く、それが岸に打ち上げられていたのでこの名で呼ばれたという。	山田	B	①○ ②○ ③○ ④ー
10	ﾃﾙ ｷｼ 照岸 (泊村)	地区 川	テレケウシイ *テレケウシ	terke-us-i	飛び越える所 ｛跳(ハ)ねる・いつもする・所｝	〈海岸の岩をはね越えて通った所であろう。〉	永田 〈山田〉	B	①○ ②○ ③ー ④
11	ﾃﾝ ﾈﾙ 天寧 (釧路町)	地区	テイネル	teyne-ru	湿(ヌ)れている・道	湿原中の通路があって呼ばれた名であろう。	山田	B	①○ ②○ ③ー ④

【ト】

	現在の地名（所在地）	区分	アイヌ語地名 カナ表記	アイヌ語地名 ローマ字表記	アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考 確定レベル	備考 コメント
1	ﾄ ｱｻ 遠浅 (早来町)	地区 駅	トアサム	to-asam	沼・の奥	ー ｛昔は遠浅沼があり、遠浅川がこの沼の奥にくっついて流出していたという。｝	山田 駅名	C	①○ ②○ ③ー ④ どちらとも特定しがたい。 ①○ ②○ ③ー ④
			トサム	｛to-sam｝	沼・の端				

	現在の地名（所在地）	区分	アイヌ語地名 カナ表記	アイヌ語地名 ローマ字表記	アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考 確定レベル	備考 コメント
2	ト イ 戸 井 (戸井町)	町 川	チエトイペッ	ci-e-toy-pet	食土ある所 〈われら･食べる･土･川〉	〈チエトイ（食土）は、水で粗い粒子を除き、野菜などとあえて食べた。たいていは白か黄色の粘土である。〉	永 田 〈山田〉	B	①○ ②○ ③－ ④ いずれにせよ「toy があった」ことが名の元と考えるのが自然と思われる。
			トイオイ *トヨイ	〈toy-o-i〉	〈(食べる)土が･ある･所〉	戸井。トヨイの略言。 〈トヨイはトイオイを続けて読んだ形である。〉	蝦 夷 〈山田〉		①○ ②○ ③－ ④
			トヨイ、トユイ	{?}	土または赤土	食糧が豊富であった道南では、飢餓の時に土を食ったという記録もないし、伝説もない。運上屋のあった付近に赤土が露出していた場所があり、そこに名付けられたものと推定している。	戸 井 町 史		①？ ②－ ③ ④
3	ﾄｲｶﾝﾍﾞｯ 問寒別 (幌延町)	地区 川 駅	トイカムペッ	{toy-kamu-pet}	土のかぶる川 {土･かぶさる･川}	{幌延町史は「トイカンベツ川沿岸に食用土が多かったことによる。」と書いている。}	駅 名	B	①○ ②○ ③－ ④
4	ﾄｲ ﾏｷ 問 牧 (枝幸町)	地区 川	トイマキ	toimaki {？}	？	〈その意味が考えにくい。〉	永 田 〈山田〉	C	①？ ②－ ③ ④
			トゥイパケ	{tuy-pake}	くずれた･出崎	－	駅 名		①○ ②－ ③ ④
5	ﾄｳ カ 十 日 (池田町)	川	トカ	to-ka	沼･の上	{池田町史は「利別川が曲流していた古い時代、川の南に『クンネトー』と呼ばれた沼があったので、この地名がついたものと思う。」と書いている。}	永 田	C	①○ ②○ ③－ ④ どちらとも特定しがたい。
					沼･の岸	今は沼は見えない。中下流の低湿原に沼があったのだろうか。	山 田		①○ ②○ ③－ ④
6	ﾄｳｹﾞｼﾀ 峠 下 (留萌市)	地区 駅	ルチシポク	{rucis-pok}	峠･下	左記の意訳。 〈ここから山を越えて恵比島に出たのだろう。〉	駅 名 〈山田〉	B	①○ ②○ ③○ ④－
7	ﾄｳｹﾞｼﾀ 峠 下 (七飯町)	地区	ランポク	ran-pok	坂･下	{森方面から文字通り峠を下ったところが、現在の「峠下」である。日本語地名の可能性もある。}	永 田	B	①○ ②○ ③○ ④？
8	ﾄｳ ﾂﾙ 涛 釣 (斜里町)	沼	トウトゥル	to-utur	沼･間	〈斜里町海岸東端の沼で、ニクル沼と並んでいる。大沼なのでただ to と呼んでいたが、後に二つの沼の間の地名であった to-utur をつけて涛釣沼と呼ぶようになったもの。〉	知 里 〈山田〉	A	①○ ②○ ③○ ④○
9	ﾄｳ ﾊﾟｲ 東 梅 (根室市)	地区 川	トパイェ	to-paye	沼行き 〈湖に･行く(所)〉	温根沼の水が風蓮湖に注ぐという意味。 〈風蓮湖東端と温根沼口との間の土地の名。何が行くのかこの形だけからは分からない。〉	永 田 〈山田〉	C	①○ ②－ ③ ④

	現在の地名（所在地）	区分	アイヌ語地名 カナ表記	アイヌ語地名 ローマ字表記	アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考 確定ベル	備考 コメント
10	ﾄｳ ﾌﾂ 当 沸 (雄武町)	川	トウッ	to-ut	沼脇 {沼･肋骨}	〈沼にウッ(あばら骨)のような形で入っていた川ででもあったろうか。あるいは沼が肋骨のような形で本流と繋がってでもいたのだろうか。〉 {雄武町史は「現在この辺に沼はない、沼が乾いて湿地になったのであろう。細長い沼の横に注いでいる川という意味だったかとも思う。」と書いている。 ただし、 to-ut は地名としては一般的でないと思われ、to-put 、to-putu などの可能性もあると思われる。}	永 田 〈山田〉	C	①？ ②ー ③ ④
11	ﾄｳ ﾌﾂ 涛 沸 (網走市)	湖	トプッ	to-put	湖の･口	大きな涛沸湖はアイヌ時代の慣例でただ to と呼ばれていたようであるが、和人が湖口の地名を採って今の湖名にした。	山 田	A	①○ ②○ ③○ ④○
12	ﾄｳ ﾌﾂ 十 弗 (豊頃町)	地区 川 駅	トプッ	to-put	沼の･口	昔この川口の西に沼があって、一緒になって十勝川に注いでいたので、その辺は to-put と呼ばれ、それに十弗と当て字された。	山 田	A	①○ ②○ ③○ ④○
13	ﾄｳ ﾍﾞｯ 当 別 (当別町)	町 川 駅	トペッ	to-pet	沼･川	〈今は水田地帯の中に埋没しているが、旧図を見ると昔は沼が並んでいた。これらがある川だったので to-pet と呼ばれたものか。〉	永 田 〈山田〉	A	①○ ②○ ③○ ④○
14	ﾄｳ ﾍﾞｯ 当 別 (上磯町)	地区 川 駅	トウンペッ	{ to-un-pet }	沼の･ある･川	ー	上 原	B	①○ ②○ ③○ ④ー いずれにせよ「沼があった川」が名の元と思われる。
			トペッ	to-pet	沼･川	上方に沼があったため。 〈古地図には上流に沼が書かれている。その沼は早く消えたらしい。〉	永 田 〈山田〉		①○ ②○ ③○ ④ー
15	ﾄｳ ﾍﾞｯ 東 別 (静内町)	地区 駅	トイペッ	toy-pet	食土川 {土･川}	〈明治の旧図には、東別駅の 700m ぐらい下の支流にトイペッがあり、名のもとらしい。永田氏はこのトイが ci-e-toy 〔我ら･食べる･土〕であると聞いてこの解をしたものらしい。〉	永 田 〈山田〉	B	①○ ②○ ③ー ④
16	ﾄｳ ﾍﾞﾘ 当 縁 (大樹町)	川	トプイ	to-puy	沼･の穴	沼の内に大きな穴があったため。	上 原	C	諸説あり特定しがたい。 ①○ ②○ ③ー ④
						大雨の後沼口が破裂して、その跡が窪(クボ)んで穴のようになったため。	永 田		
					沼･口	ー	松 浦		①○ ②ー ③ ④
					沼の･エゾノリュウキンカ	puy がこの沼に群生していたため。			①○ ②○ ③ー ④
			トプチ	to-puci	沼の･その口	古くはトープイであったが、それに当縁の字が当てられ、読みが「とうべり」に変化したというが、どうして当縁の字が使われたか不思議である。ほんとの推測だが、左記の形でも呼ばれていたのかとも考えた。	山 田		①○ ②○ ③ー ④

	現在の地名（所在地）	区分	アイヌ語地名 カナ表記	アイヌ語地名 ローマ字表記	アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考 確定レベル	備考 コメント
17	ﾄｳ ﾎﾛ 当幌 (標津町)	地区 川	トホロ	to-horo	沼･川	〈horo は道東部では川の意だったようである。地図で見ると上流まで湿原の中を流れており、昔はその所々に池(to)があって、この名で呼ばれたのであろうか。〉	松浦 永田 〈山田〉	B	①○ ②○ ③－ ④
18	ﾄｳ ﾏ 当麻 (当麻町)	町川 駅 山岳	トオマナイ	to-oma-nay	沼･に行く｛?｝･川	－	知里	C	①? ②－ ③ ④
19	ﾄｳ ﾔ 洞爺 (洞爺村)	村駅 湖公園 温泉	トヤ	to-ya	湖･の岸	to-ya は普通名詞みたいなもので、湖岸ならどこでもそうであったろう。洞爺湖も他の大きな湖沼と同じように、ただ to と呼ばれていたようである。湖岸の名を採って和人が洞爺湖と呼ぶようになったのだろう。	山田	B	①○ ②○ ③○ ④－
20	ﾄｳ ﾛ 塘路 (標茶町)	地区 湖	トオロ	to-or	沼･の所	塘路湖は達古武(タッコブ)沼の北にある大沼で、釧路川に注いでいる。有名な部落がありトオロコタンといわれた。	山田	A	①○ ②○ ③○ ④○
21	ﾄｵ ﾔ 遠矢 (釧路町)	地区 駅	トヤ	to-ya	沼･の岸	現在は沼が見えない。古い時代に湿原の所に沼があったのであろうか。 ｛明治 28 年図にはトーヤ川の下流に小沼が描かれているという。｝	山田	B	①○ ②○ ③－ ④
22	ﾄ ｶﾁ 十勝	地方 川 山岳 温泉 公園	トカプウシイ *トカプウシ	〈tokap-us-i〉	〈乳房･ある･所〉	乳の形に似た丘があったため。	秦 〈山田〉	C	①○ ②? ③ ④
						この川口が東西二口に分れ、乳が出る如く、流れが途絶えることがなかったため。	松浦		①○ ②? ③ ④
			トカ(オ)プチ	〈to-ka(-o)-p-ci〉	沼の辺枯れる所 〈沼･辺り(･にある)･所･枯れる〉	この川の中程にトカプチという大沼があって、山中草深く通行しづらいので、この沼の辺りに野火を付けて焼き枯らしたため。	上原 〈山田〉		①○ ②? ③ ④
			トゥカプチ	tukapci	幽霊｛?｝	昔時十勝アイヌの強望を悪(イ)みし詞(コトバ)なりという。 〈トカプチは十勝アイヌが誇りをもって呼んでいた名で、幽霊なんかではなさそうである。他地方のアイヌが語呂合わせみたいに悪名にしていった言葉であろう。〉	永田 〈山田〉		①? ②? ③ ④
23	ﾄｸｼﾍﾞｯ 徳志別 (枝幸町)	地区 川	トプウシペッ *トプシペッ	top-us-pet	竹･多い･川	｛松浦『西蝦夷日誌』は「トップウシベツ　笹多き川との義」と書いている。｝	永田	B	①○ ②○ ③－ ④
24	ﾄｸｼｭﾝﾍﾞｯ 徳舜瞥 (大滝村)	川 山岳	ﾄｳｸｼｼｳﾝ ﾍﾟｯ *ﾄｳｸｼｽﾝﾍﾟｯ	tukusis-un-pet	アメマス･いる･川	永田氏は「トクシシ･ウシ･ペ　アメノウオ多き川」と書いたが、今の地名は、左の形から伝わったのだろう。 ｛大滝村の旧名。中流から上にはアメマスがいるという。｝	山田	A	①○ ②○ ③○ ④○

	現在の地名（所在地）	区分	アイヌ語地名 カナ表記	アイヌ語地名 ローマ字表記	アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考 確定ベル	備考 コメント
25	ﾄｺ ﾀﾝ 床 丹 (浜益村)	地区 川	ﾄｯｺ(ﾆ)ｺﾀﾝ	{ tokko(ni)-kotan }	マムシの所 {マムシ･村}	{浜益村史は「現地はマムシが多く棲息していることからみて、この訳が当を得てると思う。」と書いている。}	松 浦	C	①○ ②○ ③○ ④？ 諸説あり特定しがたい。
			ﾄｩｸｺﾀﾝ	tuk-kotan	出来たる所 {(芽が)出る･村}	土地が出来たことをいう。	永 田		①○ ②？ ③ ④
			ﾄｩｺﾀﾝ	tu-kotan	なくなった･村	住人がなくなった時代があって、それでこの名がついたのかもしれない。	山 田		①○ ②○ ③ー ④
26	ﾄｺ ﾀﾝ 床 丹 (佐呂間町)	川	ﾄｩｺﾀﾝ	tu-kotan	廃村 {なくなった･村}	{松浦『戊午日誌』は「往昔はこの川端にアイヌが多く住んでいたため」と書いている。}	永 田	C	①○ ②○ ③ー ④ どちらとも特定しがたい。
			ﾄｺﾀﾝ	{ to-kotan }	沼･村	この地が佐呂間湖畔にあるからであろう。	駅 名		①○ ②○ ③ー ④
27	ﾄｺ ﾀﾝ 床 丹 (別海町)	地区 川	ﾄｩｺﾀﾝ	tu-kotan	山崎の･村	この崎にアイヌの家があったため。	上 原	C	①○ ②○ ③ー ④ 諸説あり特定しがたい。
					二ッ･村	今のﾄｩｺﾀﾝとライチコタンを呼んでニッ村と称したが、後に一村の名となったという。	永 田		①○ ②○ ③ー ④
			ﾄｺﾀﾝ	{ to-kotan }	沼･村	ー	松 浦		①○ ②○ ③ー ④
28	ﾄｺ ﾀﾝ 床 潭 (厚岸町)	地区	ﾄｺﾀﾝ	to-kotan	沼･村	〈今の床潭部落のそばに大きな床潭沼があるのが、この地名のﾄ(沼)だったのであろう。〉	永 田 〈山田〉	A	①○ ②○ ③○ ④○
29	ﾄ ｺﾛ 常 呂 (常呂町)	町 川 駅 山岳	ﾄｺﾛﾍﾟｯ	to-kor-pet	沼･を持つ･川	今の常呂川は岬の端で海に注いでいるが、昔はライトコロ（死したる沼川）の筋を流れてサロマ湖に注いでいた。	永 田	B	①○ ②？ ③ ④
			ﾄｩｺﾛ	〈 tu-kor 〉	〈山崎･を持つ〉	この場所が山崎となっていたため。 〈古い時代の文献に現れた常呂の地名は仮名書きであるがどれも「ツコロ」と書かれている。元来はﾄｩｺﾛ(tu-kor)だったから、当時はそれをツコロと書いたのではなかろうか。なお上原が書いたﾄｩ（ tu 山崎）は常呂川の東側の長尾根のことであったろう。常呂川の川口がそこで海に出ていたのはずいぶん古い時代からのことらしい。〉	上 原 〈山田〉		①○ ②○ ③ー ④ tu-kor の方が妥当性が高いと思われる。
30	ﾄｼ ﾍﾞﾂ 利 別 (池田町)	地区 川 駅	ﾄｩｼﾍﾟｯ	tus-pet	縄･川	昔からこの川筋が釧路と十勝の境界となっていて、ときには境界争いが起きたという。十勝アイヌがこの河口に縄を張って、釧路アイヌを通さなかったため、この名が付いたという。	松 浦	C	①○ ②○ ③ー ④ どちらとも特定しがたい。
					ヘビ川(直訳：綱･川)	〈ヘビがいたためか、川が蛇行していたためかはっきりしない。〉	永 田 〈山田〉		①○ ②○ ③ー ④

	現在の地名 （所在地）	区分	アイヌ語地名 カナ表記	アイヌ語地名 ローマ字表記	アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考 確定レベル	備考 コメント
31	ﾄｯﾀﾍﾞｯ 戸蔦別 (帯広市)	川 山岳	ﾄｯﾀﾍﾟｯ	totta-pet	箱･川	〈ﾄｯﾀはシナの木の皮や繊維で編み上げた大かますで、稗や粟を穂のまま入れて保存したのだという（萱野茂氏談）。安田巌城氏十勝地名解は「ﾄｯﾀは箱。両岸岩石等に囲まれて、あたかも函の状態になった所があったため。」と書いた。〉 ｛戸蔦別川には現在も函が多く見られるという。｝	永田 〈山田〉	A	①○ ②○ ③○ ④○
32	ﾄｯ ｼｮｳ 突哨 (旭川市)	山岳	ﾄｩｼｿ	tusso	絶壁	樺太では、海岸の絶壁にある洞窟を意味しているが、本来は絶壁そのものを指す語で、 tuk-so （突き出た･壁）の転訛と考えられる。 〈比布境の所に、山の方から長く突き出している丘陵の名。〉	知里 〈山田〉	B	①○ ②○ ③○ ④ー
33	ﾄｯ ﾌﾟ 徳富 (新十津川町)	川 駅 山岳	ﾄｩｸ	tuk	隆起 〈出る、生える〉	この川筋はしばしば流を変え、河跡は隆起して陸地となったため。	永田 〈山田〉	C	①○ ②ー ③ ④
					小山	ー	駅名		①○ ②ー ③ ④
34	ﾄｯ ﾌﾟ 突符 (乙部町)	川 山岳 岬	ﾄｩｸ	tuk	隆起 ｛出る、生える｝	川流が変化する毎に、旧流の地が隆起する様子をいう。	永田	C	①○ ②ー ③ ④
35	ﾄﾄﾞﾎｯｹ 椴法華 (椴法華村)	村	ﾄｩﾎﾟｸｹ	tu-pok-ke	山の走り根･の下･の所	椴法華は恵山の山裾が高い岬になって突き出している所の西側に位置する。	山田	B	①○ ②○ ③ー ④
36	ﾄ ﾍﾞｯ 途別 (幕別町)	地区 川	ﾄﾍﾟｯ	to-pet	沼の･川	語意ははっきりしない。この川筋には沼らしい沼はないようであるので、もし to-pet であったのなら昔の川尻の部分に河跡沼でもあっての称であろう。	山田	C	①○ ②ー ③ ④
			ﾄｩﾍﾟｯ	tu-pet	二つ･川				①○ ②ー ③ ④
37	ﾄﾏｺ ﾏｲ 苫小牧 (苫小牧市)	市 川 駅	ﾄﾏｸｵﾏｲ *ﾄﾏｺﾏｲ	to-“ mak-oma-i ”	沼の（ある）･マコマイ川（山の方･に入っている･川）	現在の苫小牧川の旧名がマコマイで、今の苫小牧の市街地は元来はマコマイと総称されていたのであろう。マコマイについては、永田氏は「マコマナイ（後の川）。村の後背にある川」としたが、他地方にいくつかあるマコマナイは、どうも「山の方･に入っている･川」だったようで、ここも樽前山の方にずっと入り込んでいる川の意味だったのではなかろうか。ﾄﾏｺﾏｲは旧記を見るとマコマイのすぐ西の名で、西側の支流か小川の名であったらしい。土地の古老に聞くと、旧樽前神社の辺りから西にかけて湿地と沼が並んでおり、ある時代には、その水が海に直入したり、苫小牧川に入ったりしていたが、今は全部埋まったという。	山田	B	①○ ②○ ③ー ④

	現在の地名 （所在地）	区分	アイヌ語地名 カナ表記	アイヌ語地名 ローマ字表記	アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考 確定ベル	備考 コメント
38	ﾄﾏ ﾀ 苫多 (厚岸町)	地区	トマタオロ	〈 toma-ta-oro 〉	トマ取りに多し {エゾエンゴサク・掘る・その所}	紫の絨毯を敷いたようだった。 〈トマはエゾエンゴサクで、アイヌ時代はその塊茎（豆）を好んで食べた。〉	松浦 〈山田〉	B	①○ ②○ ③ー ④ いずれにせよ「toma を掘った」ことが名の元と思われる。
			トマタロ	toma-ta-ro	エゾエンゴサクを掘る所｛？｝	ー	永田		①？ ②○ ③ ④
			トマタル	toma-ta-ru	エゾエンゴサク ・掘り(に行く)・道	永田氏はロ（ro）を所と訳したが、その言葉を知らない。こうででもあったろうか？	山田		①○ ②○ ③ー ④
39	ﾄ ﾏﾁｾ 十町瀬 (釧路町)	地区	トゥイマチヌプ	〈 tuyma-ci-nu-p 〉	〈遠い・我ら・聞く・所〉	遠くよりトド（海獣）の声を聞いたためという。	松浦 〈山田〉	C	①？ ②ー ③ ④
			トマチエヌプ	〈 toma-ci-e-nup 〉	エンゴサク野 〈エゾエンゴサクを・我ら・食う・野〉	食料であるエゾエンゴサクのある原野。	永田 〈山田〉		①？ ②ー ③ ④
40	ﾄﾏ ﾍﾟｯ 苫別 (えりも町)	地区 川	トマムペッ	tomam-pet	低湿原野の・川	{えりも町史は「下流は湿地や沼地が多く、この付近第一の川である。」と書いている。}	山田	B	①○ ②○ ③○ ④ー
41	ﾄﾏ ﾏｴ 苫前 (苫前町)	町	トマオマイ	〈 toma-oma-i 〉	エゾエンゴサク・ある・所	当所はエンゴサク多く有るところのため。 {苫前町史も同説。}	上原 〈山田〉	B	①○ ②○ ③ー ④ 少なくとも現在名については上原解の音が近いと思われる。
			エンルムオマモイ *エンルモマモイ	〈 enrum-oma -moy 〉	〈岬・にある(入り込んでいる) ・入江〉	本名エンルムオマムイという。 〈旧市街は段丘下の浜にあり、そのとおりの所。〉	松浦 〈山田〉		①○ ②○ ③ー ④
42	ﾄ ﾏﾑ 斗満 (陸別町)	地区 川	トマム	tomam	ヤチ {湿地}	ー	永田	B	①○ ②○ ③ー ④
43	トマム (占冠村)	地区 川 駅 山岳	トマム	tomam	湿地	ー	山田	B	①○ ②○ ③ー ④
44	ﾄﾏﾘ 泊 (江差町)	地区 川	トマリ	tomari	泊地	トマリは日本語からアイヌ語に入った言葉で、諸方の地名に残っているが、ここは北海道の入口に近い辺であるので、和人もアイヌも共通してトマリと呼んでいた所であろうか。	山田	B	①○ ②○ ③ー ④
45	ﾄﾏﾘ 泊 (泊村)	村	モイレトマリ	moyre-tomari	緩潮の泊 〈静かな・泊地〉	〈市街地の所の入り江の名は、アイヌ時代にはモイレ・トマリであった。この辺には何々トマリという名が並んでいる所なので、泊の名はそれを採ったのであろうが、まずは中心のモイレトマリを考えての名であろう。〉	永田 〈山田〉	B	①○ ②○ ③ー ④

	現在の地名 （所在地）	区分	アイヌ語地名 カナ表記	アイヌ語地名 ローマ字表記	アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考 確定レベル	備考 コメント
46	トマリ 泊 (島牧村)	川	トマリ	〈 tomari 〉	〈泊地〉	よい舟澗であったため。 〈永田地名解によれば本来はポロペッ(大・川)で、またシペッ(大・川)とも呼ばれたという。〉	松浦 〈山田〉	B	①○ ②○ ③ー ④
47	トマリ ナイ 泊内 (稚内市)	川	トマリナイ	tomari-nay	泊地の・川	ちょっとした舟着場だったのであろう。	山田	B	①○ ②○ ③ー ④
48	トミプシ 富武士 (佐呂間町)	地区	トゥプウシ ＊トゥプシ	tup-usi	小さきうぐひ魚居る所｛？｝	｛松浦『戊午日誌』は「トツポウシ　その名義は二寸三寸位のウグイのことという。 この川にウグイが多くいるため名付けられたものか」と書いている。トプは一般的に竹のことだが、シシャモを柳葉魚というように、小さいウグイを「竹のような魚」と呼んだものか。｝	永田	C	①？ ②ー ③ ④
			トプウシ ＊トプシ	top-us-i	竹・群生している・もの（川）	松浦図ではトツホウシとなっている。あるいはこのような形だったかもしれない。	山田		①○ ②ー ③ ④
49	トムラウシ (新得町)	川 山岳	トンラウシイ ＊トンラウシ	tonra-us-i	トンラ（一種の水草）・ が生えている・もの（川）	トンラはめったに聞かない語。バチラー辞典では「川底にある一種の水草」と書かれていた。新得町役場では、トムラウシはミズゴケのある川、あるいは湯花のある川といわれた。自信はないが、こんな意ででもあったろうか。	山田	C	①？ ②ー ③ ④
50	トモ シリ 友知 (根室市)	地区 湾	トゥムシリウシイ ＊トゥムシルシ	tum-sir-us-i	間の地面 ｛？｝	二岬の間にある地面をいう。 〈友知湾内の土地を指したものか？〉	永田 〈山田〉	C	①？ ②ー ③ ④
			トゥプモシリ	｛tup-mosir｝	二つの・島	海上十余丁を隔て、周十五六丁位の島二つ有り。	松浦		①？ ②ー ③ ④
						沖にある島の名を陸地の部落に移行したもの。	更科		
			トゥモシリウシ ＊トゥモシルシ	tu-mosir-us-i	二つの・島が・ある・所	音だけでいうならば、このようにその辺を呼んだのかもしれない。	山田		①○ ②ー ③ ④
51	トヨ ウラ 豊浦 (豊浦町)	町 駅	ー	ー	ー	旧名弁辺(べんべ)、「ベベ」は北海道方言で女陰をいうので、それを避けて豊浦と改名したという。弁辺は、pe-un-pe（水・ある・所）、pe-pe-nay（水・水・川）か、または pe-pe（水・水）から来た名だったらしい。	山田	A	和名と思われる。
52	トヨカンペツ 豊寒別 (浜頓別町)	地区 川	トイカムペッ	｛toy-kamu-pet｝	土のかぶる川 ｛土・かぶさる・川｝	〈相当苦心して言葉を当てたものらしい。見た範囲ではそんな姿は見えないが、然るべき言葉も思い浮かばない。〉	駅名 〈山田〉	C	①○ ②？ ③ ④
53	トヨ コロ 豊頃 (豊頃町)	町 駅	トプヨカオロ	?	？	ー	永田	C	①？ ②ー ③ ④
			トエコロ	{?}	多くの蕗（フキ）｛？｝	〈 22 年版の記載。 25 年版からは、永田地名解と同様「？」。〉	駅名 〈山田〉		①？ ②ー ③ ④